

# 下田市ワークショップの実施経過

観光地として、有名な下田市も観光客の減少傾向にあり、都市生活者の関心が高い健康増進を目的としたいわゆる“癒し”をテーマに「海」と「温泉」という他に比類なき資源の活用した新たな観光戦略が急務となっています。

そこで、下田市は、海の魅力を活用した海洋浴のプログラムづくりやモデルツアーに向けての基礎的な検討を進める第一段階として、下田市の海洋浴資源の抽出、プログラム化へのアイデアをまとめるためにワークショップ（以下「WS」）を開催しました。

**第1回【平成17年1月7日（金）】**下田市における海洋浴のあり方について、「私が考える下田流海洋浴」の意見交換をしました。また、海洋浴の素材を含めて下田市が有する観光資源を「私の一押し」として各参加者が発表しました。

**第2回【平成17年2月14日（月）】**下田市内に存在する海洋浴に関連する資源の確認と将来、利用者層となる都市生活者から下田市の海洋浴資源についての意見・感想を引き出すために、都市生活者（熟年者）1名をアドバイザーとして任命しWSメンバーとともに下田市を実地調査しました。

**第3回【平成17年3月14日（月）】**下田流海洋浴のあるべき姿について、都市生活者アドバイザーが発表し、発表内容を受けて、「下田流海洋浴の定義」と「海洋浴のプログラム案」を2班に分かれて検討して発表しました。



## 「私の考える下田流海洋浴」「私の一押しの下田」をリストアップ

第1回WSは平成17年1月7日（金）13：00～15：45、下田市役所大会議室で開催。最初に、事務局である下田市観光協会からWS開催の狙い等を説明しました。

また、下田市長・石井直樹氏からWSへの期待等を挨拶いただきました。続いて、本WSのファシリテーター（進行役）である（財）都市農山漁村交流活性化機構（愛称：まちむら交流きこう）からWSの進め方と話題提供として、「WSとは何か」と「下田市全3回のWSのテーマと各回の主な作業」を説明しました。

最初のWSの作業は、最初に参加者の自己紹介をしました。

席順（口字形式）に各自、お仕事・名前とともに、「過去・現在・未来を問わず、時間とお金を気にしないで行かれるとしたら、どこに行ってみたいか？」ということを紹介しました。

続いて、次の項目について、10分程度の時間で参加者各自の考えをメモにまとめました。『私が考える下田流海洋浴』【海洋浴とは？下田市における海洋浴と温泉療法の取り組みについて、自分はどのような海洋浴を取り組むのが良いと思いますか。】ということについて、各自、用紙に記入しました。

『私の一押し下田』下田市の観光等の資源について、どのようなものが優れていると思っているか。（食べ物、名所・旧跡、文化、自然、景観、体験など）付箋用紙に1枚1カ所を書きました。そして、上記2項目のメモの内容を順番に各自3～5分程度で発表しました。

最後に、次回のWSで実施する実地検証に向けて、下田流海洋浴の有力な資源を具体的にリストアップし、調査するコースを作成しました。

下田市を地区毎（下田市街、白浜、柿崎、須崎、田牛、蓮台寺、その他）に分け、（1） で書いた付箋用紙に記入したものをホワイトボードに張り付けました。外せない観光ポイント、お薦めポイント、付箋付けした地域に漏れはないか、海洋浴ポイントは抜けていないかを検討しました。



## 下田の一押しポイントを調査する

【第2回WS】は、平成17年2月14日(月)

10:20~16:00

現地調査及びベーステージ下田会議室で開催しました。現地調査コースは、第1回WSで出された「私の一押しポイント」の中から田牛・蓮台寺・街中・白浜・爪木崎・柿崎です。田牛地区(サンドスキー、竜宮洞、トンネル、青少年の家ほか) 蓮台寺地区(湯の花小道など) 街中(循環道路、ペリーロードなど) 白浜地区(尾ヶ崎での眺め、車窓から海を見る) 爪木崎 須崎 柿崎 まどが浜と廻りました。

第2回は、都市生活者の目から見た下田市の資源確認をする都市生活者アドバイザーも参加しての現地調査。限られた時間内で多くのポイントを回りましたので、じっくりと五感を刺激しつつ調査することはできませんでしたが、各自、下田のイメージを確認する事ができました。ベーステージ下田に戻ってのWS作業(14:40~16:00)は、調査ポイントの感想や資源としてどのように活用するかを意見交換しました。





都市生活者アドバイザーの下田市の第一印象と下田流海洋浴についての感想は、コンビニやコーヒーショップ（チェーン店）がなく、昔ながらの商店街が健在な街。

皆さんとの会話からよく出る「下田時間」「下田人」。これは、ゆっくり、のんびりということで日常では、障害になる事であるが「下田時間」「下田人」という言葉が逆に、時間に急かれる都会人には、一つの売りになる。

「海洋浴」は、下田の持つ資源“温泉”“海水浴”“観光”が組み合わせられてできるもの。

下田全体がテーマパークになるように『ひと工夫』する事が下田流海洋浴の大きな鍵になる。したがって、下田らしい（下田流）ゆっくりした時間の流れをもう一度集大成したらどうか。

多様なプログラム、観光スポット等をピックアップして、お客様がアレンジし、それを地域がサポートすることが一番である。

一番の課題は情報発信方法。これは要検討。昔から「温故知新」と言い、歴史ある蓮台寺の温泉を素に新しい試みを今、作り、試す時と思う。

### 下田流の「海洋浴の定義」と「体験プログラム」を作成

【第3回WS】は、平成17年3月14日（月）13:00～16:00





ベースステージ下田会議室で開催。最初に、都市生活者アドバイザーが「下田流海洋浴促進イメージ」の提案を行い、続いて、2班に分かれて、「下田流海洋浴の定義」と「下田流海洋浴プログラム」について検討した後、各班の代表者が発表し、意見交換しました。

最後に、ファシリテーターを勤めた“まちむら交流きこう”と事務局から今後の海洋浴の推進への参加者のさらなる協力をお願いして、3回にわたるWSを終了しました。

